

【概要】

2014年度 民間住宅ローン借換の実態調査

I 調査の概要

現在、民間住宅ローンの借入があり、2013年11月～2014年10月に借換をされた方を対象として借換による住宅ローンの金利タイプの変化、借換理由などの事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。回答数:940件

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 借換後の金利タイプは、「固定期間選択型」と「変動型」が多い<p. 2、p. 3>

- ・借換後の金利タイプは、「固定期間選択型」が最も多く40.5%、「変動型」がそれよりやや少なく37.6%、「全期間固定型」は21.9%となっている。
- ・借換後の金利タイプ別利用割合の月ごとの推移をみると、2014年3月以降は「固定期間選択型」と「変動型」の利用割合がほぼ拮抗していたが、同年10月は「変動型」が大幅に上昇している。

2 借換までの経過期間は、「5年超10年以内」の割合が最も高い<p. 4>

- ・借換までの経過期間は、「5年超10年以内」の割合が最も高く、33.5%となっている。

3 年齢層が高くなるほど「変動型」への借換割合が上昇した<p. 5>

- ・年齢別に見ると、年齢層が高くなるほど「変動型」への借換割合が上昇する傾向にある。

4 金利低下と返済額減少が借換理由の多数を占める<p. 6>

- ・借換理由は、「金利が低くなるから」が64.6%、「返済額が少なくなるから」が51.6%と多数を占める。